

雨の中「第 16 回陸奥湾の海と山をつなぐ植樹祭」が開催

令和 8 年 6 月 21 日（日曜日）に、平内町の国有林（社会貢献の森）において、陸奥湾のホタテを高温から守る植樹実行委員会の主催による「第 16 回陸奥湾の海と山をつなぐ植樹祭」が開催されました。



開会式で挨拶をする永井実行委員長（左）と山田青森森林管理署長（右）

このイベントは、平成 22 年の猛暑によって陸奥湾の重要な海産物であるホタテが大量死したことを発端に、地元住民の環境問題への意識が高まり、「陸奥湾のホタテを守るため、海とつながっている山に植樹しよう」と植樹活動が始まったものです。翌年の平成 23 年から陸奥湾近くの国有林において、NPO 法人白神山地を守る会と青森森林管理署が「社会貢献の森」協定を締結し、植樹活動を行っています。



1m 前後の苗木と唐鋤を植樹箇所まで運ぶ様子

16 回目の開催となった今回は、子供から高校生、大学生、社会人など総勢 70 名弱の多様な方々が集い、ブナやミズナラといった広葉樹の苗木の植樹を行いました。

天候には恵まれずあいにくの雨でした。しかし、雨のおかげで土壌が柔らかくなっており、乾燥した土よりも穴が掘りやすかったのではないのでしょうか。また、湿った土壌のほうが苗木も喜んでいるようで、根の定着が良いようです。

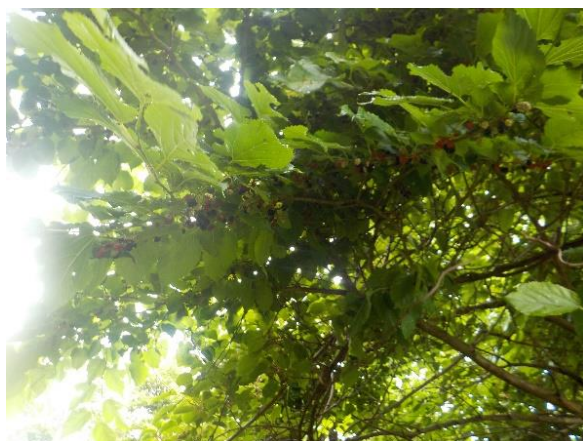


一人でできるかな



当署職員は植樹のサポートを行いました

道中には、ヤマグワ（桑の木）やナツグミ（グミの木）が生えていて、植樹以外にも森林浴や山の恵みを楽しむ姿が見られました。



ヤマグワ（左）とナツグミ（右）





当日の朝は雨が強く、一時はどうなるかと思いました。植樹祭が開始されるタイミングで雨が弱まり、無事開催できてよかったです。陸奥湾の海と山をつなぐ植樹祭を通じて、個々の自然だけでなく、それらの関係性、循環型社会の形成の重要性などに改めて気づかされました。

青森森林管理署では、森林整備活動のフィールドとして国有林を提供し、企業などが社会貢献活動の一環として森林の保全・整備に取り組めるようにしておりますので、ご関心があれば連絡をしてくださいますようお願いいたします。

青森森林管理署 業務グループ